

第3回学生観光論文コンテスト

論文テーマ：「我が国のMICE競争力強化に向けて、私の提案」

SNSを用いたコンベンション誘致の可能性

～ 京都発の”いい循環”構築への提言 ～

京都大学経済学部 2回 田中康彬

京都大学経済学部 2回 森田遥平

目次

1. はじめに

2. 学会・国際会議に対するニーズ調査

2-1 アンケートの概要

2-2 アンケートの結果

3. 学会・国際会議開催地としての京都市の魅力

3-1 京都市が持つ魅力 – 高い外国人参加比率 –

3-2 京都市が持つ魅力 – 学生数 –

4. 我々の提案

4-1 提案の全体像

4-2 各プレイヤーにとってのメリット (学会主催者の場合)

4-3 各プレイヤーにとってのメリット (京都市、CB の場合)

4-4 各プレイヤーにとってのメリット (学生の場合)

4-5 この章のまとめ

5. おわりに

1. はじめに

2013年6月、観光庁はMICE¹誘致のポテンシャルが高い都市を選定し、国として集中的な支援を行うとともに、都市の自立的な取組を促すため、グローバルMICE戦略都市として5自治体、グローバルMICE強化都市として2自治体を選定した。我々の住む京都市は、東京都、横浜市、神戸市、福岡市とともにグローバルMICE戦略都市に選定されている。² 実際に、福岡市は、博多区の博多港ウォーターフロント地区に5千平方メートルの展示場を新設する計画を打ち出す³など、各地で国際会議場、展示場の拡張、新築の計画がなされている。パシフィコ横浜、東京国際フォーラム、東京ビッグサイトなどは株式会社として運営されており、拡張、新設の意思決定が比較的容易に行えると考えられるが、京都市の主要な国際会議場である国立京都国際会館は国立であるため、拡張、新設までのプロセスが複雑になり、結果的にすばやい意思決定が困難になっている可能性がある。

図表1-1 都市別国際会議の開催件数

開催都市	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
東京(23区)	408	353	428	357	460	440	480	497	491	470
福岡市	77	77	76	97	126	151	172	206	216	221
横浜市	70	41	82	105	103	157	184	179	174	169
京都市	145	149	170	137	154	183	171	164	155	137
名古屋市	86	83	89	108	109	109	130	124	122	112
神戸市	79	84	44	58	76	89	94	76	91	83
大阪市	82	80	94	89	111	76	77	94	69	72

日本政府観光局(JNTO)『2011年国際会議統計』より著者作成

図表1-1はグローバルMICE戦略都市、および強化都市における国際会議の開催件数を表している。これより京都市は2007年までは東京23区に次ぎ日本で2番目の国際会議開催地であったにも関わらず、その後、福岡市、横浜市に抜かれ、2008年より現在に至るまで第4位となっている。また、2002年から2010⁴年までの8年間で福岡市は年平均約13.8%、横浜市は年平均約12.1%、名古屋市は年平均約4.7%で増加しているが、京都市の場合2007年を境に開催数は減少傾向にある。以上より、京都市は海外だけでなく、国内の他都市と比べても競争力が不足していることが分かる。京都市は他の都市とは異なり海に面していないことから、埋め立てにより土地を捻出し、新たに大規模な展示場、国際会議場を新設することは非常に難しいと考えられる。京都市の競争力をこのまま低下させたままでいいのであろうか？我々は京都市の持つポテンシャルとソーシャル・ネットワーキング・サービスを組み合わせることで、京都市に“いい循環”をもたらし、京都市の競争力を強化できると考えている。またその“いい循環”が日本全国に広まることで、日本全体の競争力を強化できるはずである。以下、第2章では学会・国際会議の出席者の立場である京都大学の先生方が、学会・国際会議に対し何を求めているか、アンケートを実施し、その結果を述べる。第3章では、他の国内競合都市と京都市を比較し、京都市の持つ特徴を述べる。第4章で

は我々の提案を述べ、”いい循環”がどのように生み出されていくのかを説明する。

2. 学会・国際会議に対するニーズ調査

2-1 アンケートの概要

我々は、学会・国際会議の出席者である京都大学の先生方に対し、学会、国際会議に何を求めているのかを調査するため、京都大学理学部、工学部、総合人間学部、京都大学大学院地球環境学堂・地球環境学舎・三才学林に所属する教授、准教授、講師にアンケートを実施した。その結果、77名の方から返事を頂くことができた。先生方には、国内または海外の学会、国際会議に出席するに当たり考慮するであろうと我々が考えた項目に関して、1点(重要視しない)、2点(あまり重要視しない)、3点(ふつう)、4点(重要視する)、5点(とても重要視する)の点数を付けてもらった。以下は点数を付けてもらった項目である。

国内の学会・国際会議に出席するに当たり、以下の項目は重要でしょうか?

- ・ 講演者の質
- ・ 他の研究者との意見交換
- ・ 競合研究者の動向把握
- ・ 開催日程・時期
- ・ 規模(出席人数等)
- ・ 開催される会議施設の Wi-Fi 状況・インターネット環境
- ・ 会議登録費・参加費
- ・ 開催される会議施設
- ・ 開催地までのアクセス
- ・ 寺院・博物館等の特別な環境での懇親会やパーティー
- ・ 開催地における歴史、文化等の観光資源
- ・ 宿泊施設の充実度
- ・ 充実した飲食・物販施設
- ・ 開催地の気候(温度や湿度等)

海外の学会・国際会議に出席するに当たり、以下の項目は重要でしょうか?

- ・ 講演者の質
- ・ 他の研究者との意見交換
- ・ 競合研究者の動向把握
- ・ 開催日程・時期
- ・ 規模(出席人数等)
- ・ 会議登録費・参加費
- ・ 開催地までのアクセス
- ・ 開催地におけるインターネット環境(街中における free Wi-Fi スポットの充実度等)

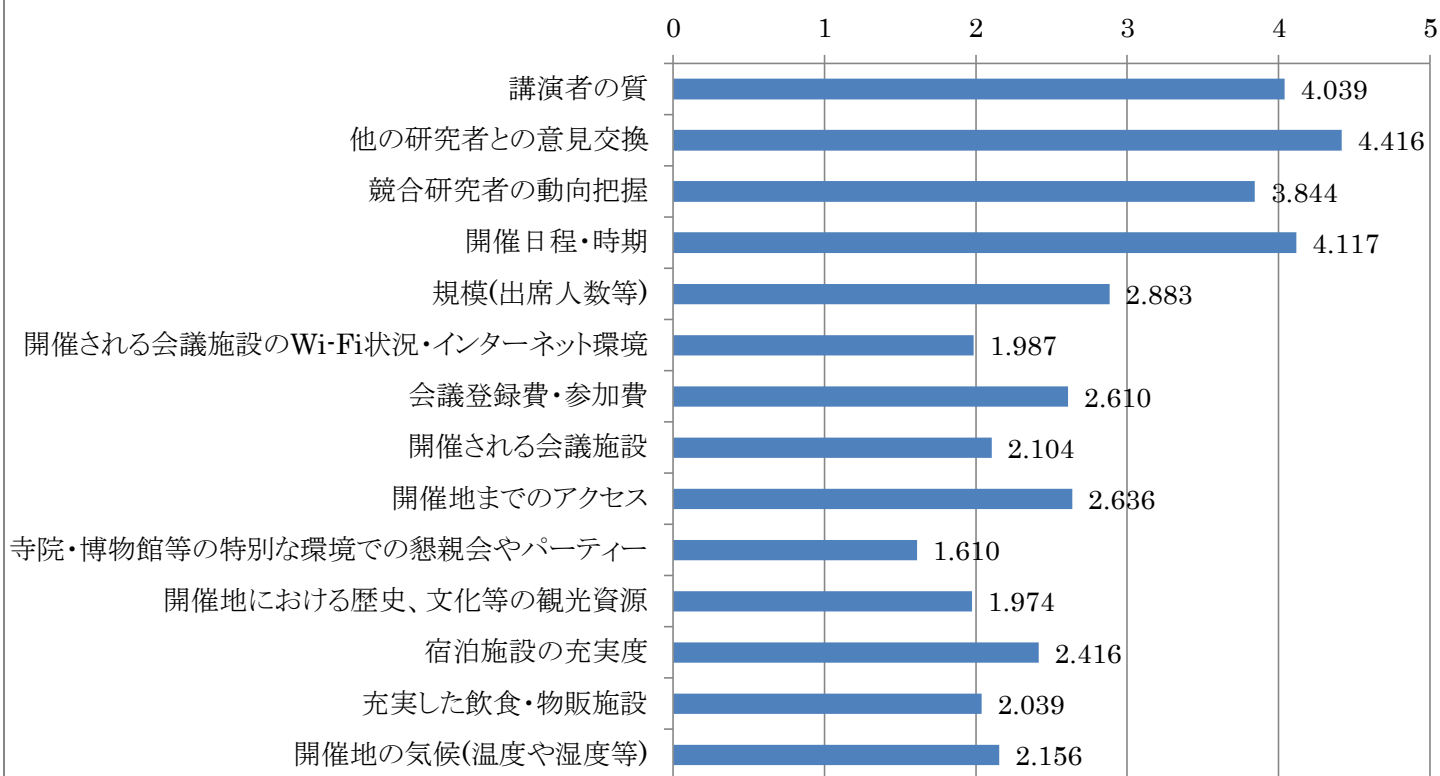
- ・寺院・博物館等の特別な環境での懇親会やパーティー
- ・開催地における歴史、文化等の観光資源
- ・開催地の物価
- ・宿泊施設の充実度
- ・充実した飲食・物販施設
- ・開催地の気候(温度や湿度等)
- ・政治の安定性、治安の良さ

なお、国内の場合と海外の場合では同じ項目でも重要度が異なると考えたため、両方で重複する項目を設けている。世界の国際会議誘致都市ではレセプションやパーティーを開くため、博物館や城をユニークベニューとして利用するケースが多い(例えばパリのルーブル美術館やロンドンのロンドン自然史博物館⁵など)。京都には京都国立博物館、京都市美術館など多くの美術館、博物館が存在し、神社や寺院など、ユニークベニューとして活用できると思われる施設が数多く存在する。そのため、これらの施設での懇親会が魅力的かどうかを調べるために「寺院・博物館等の特別な環境での懇親会やパーティー」を加え、京都という都市の魅力が学会、国際会議出席を後押しするかを調べるために「開催地における歴史、文化等の観光資源」を追加した。

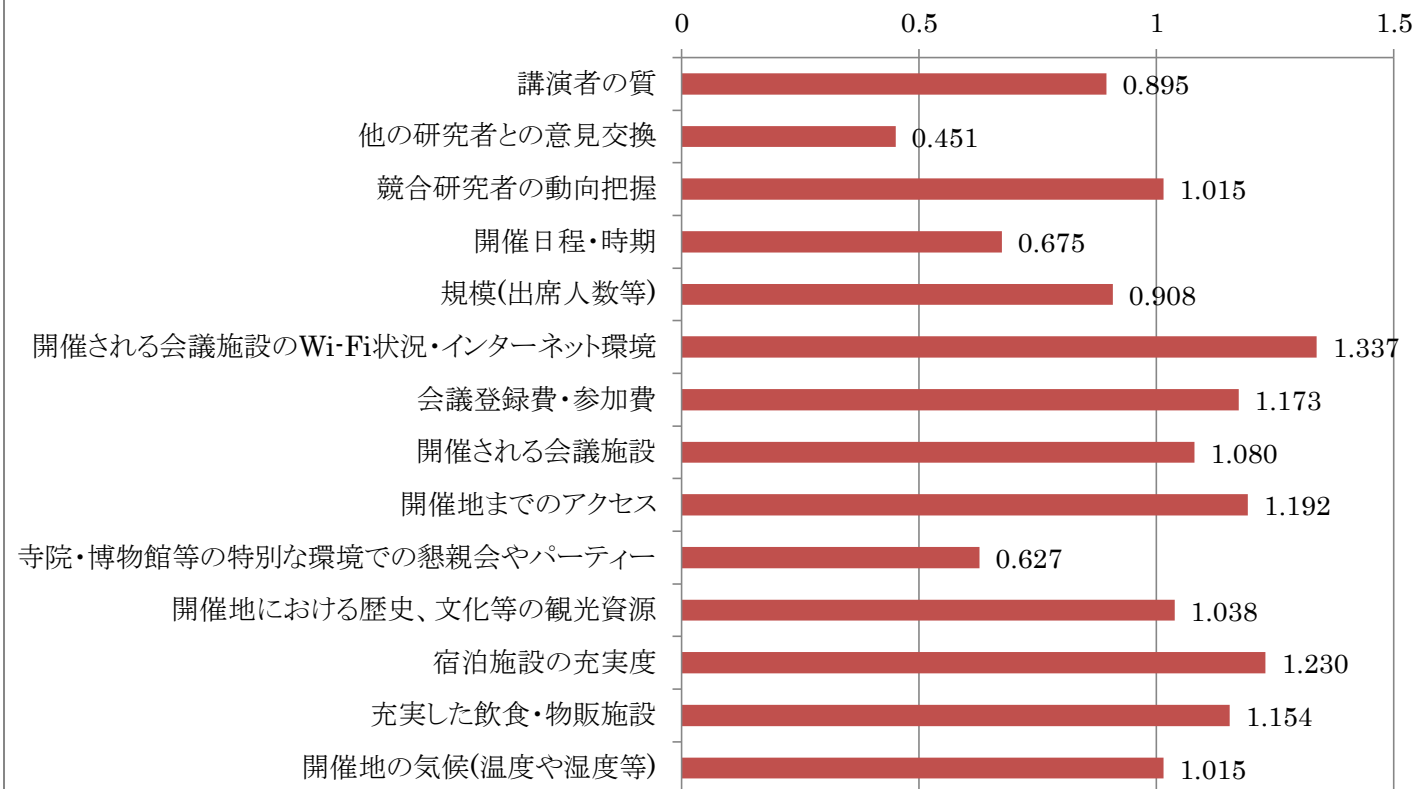
2-2 アンケートの結果

図表 3-1 と図表 3-3 は 77 名の先生方の回答を項目別に平均を取ったものである。すなわち、値が 5 に近ければ、その項目を重視することになり、1 に近ければその項目を重視しないことを表す。また、図表 3-2 と 3-4 は 77 名の先生方の回答を項目別に分散を取ったものである。すなわち、値が大きければ先生の回答に散らばりが大きいことを表し、値が小さければ、先生の回答に散らばりが少ないことを表す。図表から、「講演者の質」、「他の研究者との意見交換」、「競合研究者の動向把握」、「開催日程・時期」の 4 つの項目においては国内、海外問わず重要である事が分かる。また、海外で行われる学会、国際会議に出席する場合、「政治の安定性・治安の良さ」も重要である事が分かる。一方、国内の場合、「寺院・博物館等の特別な環境での懇親会やパーティー」と「開催地における歴史、文化等の観光資源」に関しては重要でないと答える先生方が多く、特に前者は分散も小さいことからほとんどの先生方が重要ではないと回答している。また、国内と海外の場合で重複した質問項目において、海外の場合の方が平均得点が高い傾向が見られる(例えば、「講演者の質」の平均得点は国内では 4.039 点なのに対し、海外の場合は 4.234 点になっている)。そこで、海外の場合では各項目に関してどのくらい重要度が増すのかを調べるために、平均の差を調べた。すなわち「講演者の質」の場合 $4.234 - 4.039 = 0.195$ 点の増加と考える。その結果、「講演者の質」の場合 +0.195 点、「他の研究者との意見交換」の場合 +0.078 点、「競合研究者の動向把握」の場合 +0.143 点、「開催日程・時期」の場合 +0.013 点、「規模(出席人数等)」の場合 +0.247 点、「会議登録費・参加費」の場合、+0.169 点、「開催地までのアクセス」

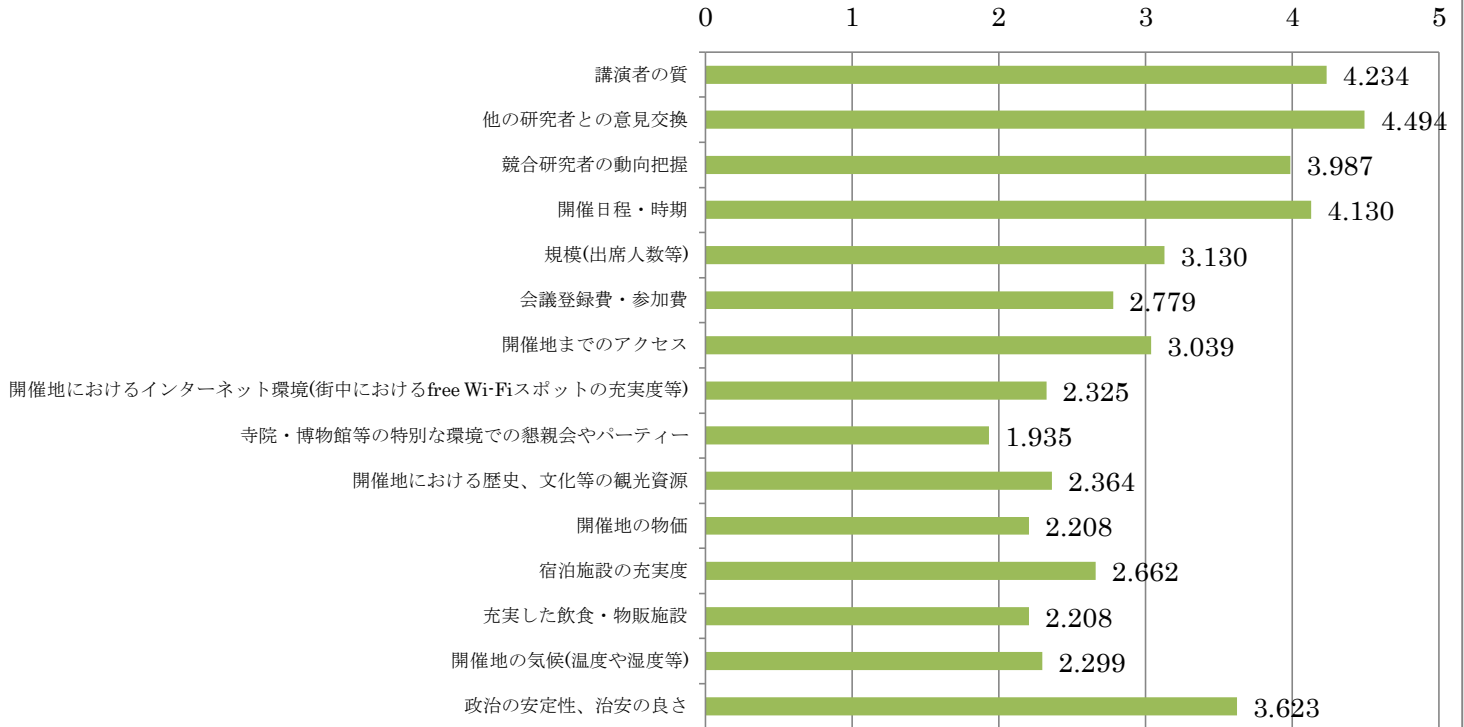
図表2-1 国内の学会・国際会議に出席するに当たり、重視する項目(平均)



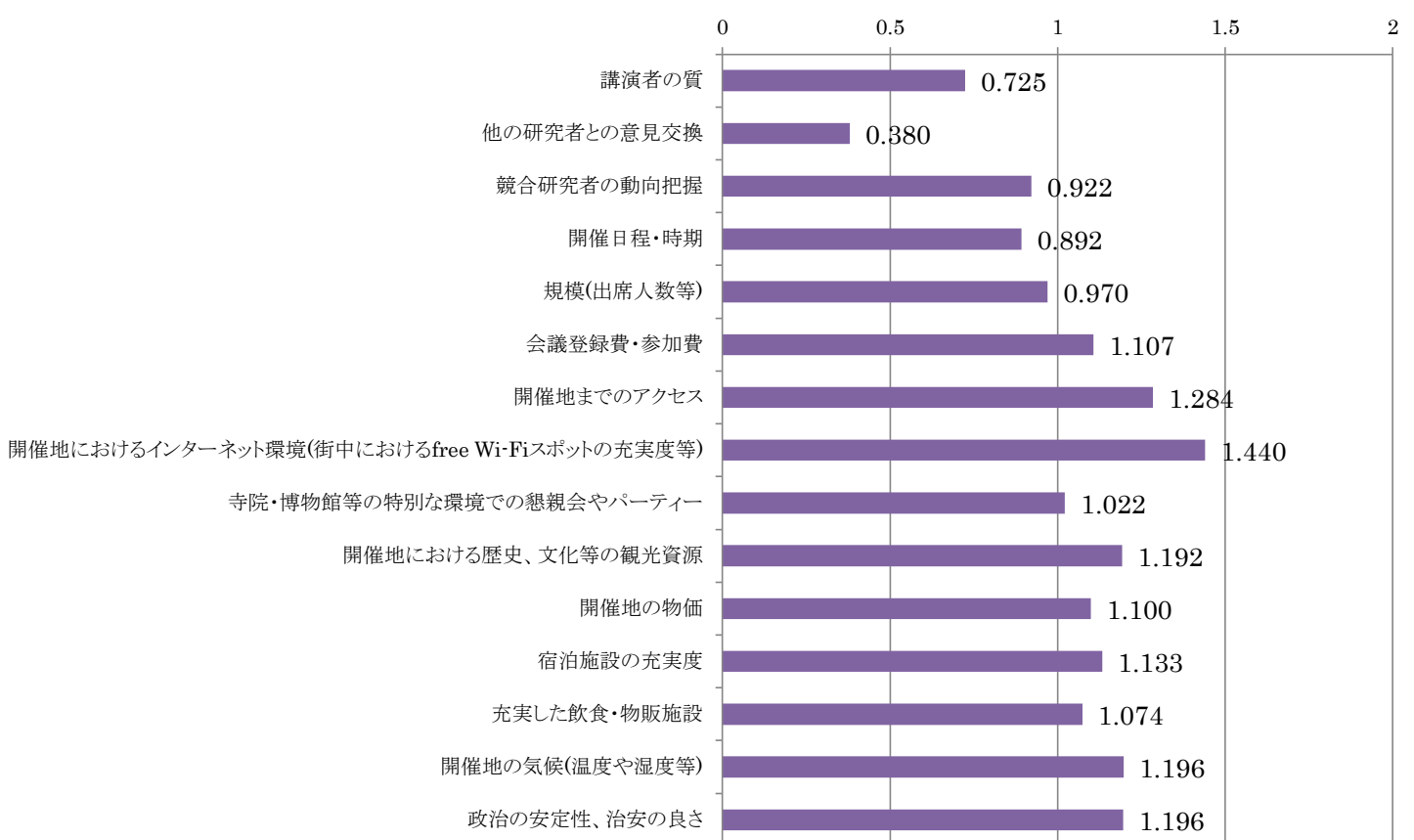
図表2-2 国内の学会・国際会議に出席するに当たり、重視する項目(分散)



図表2-3 海外の学会・国際会議に出席するに当たり、重視する項目(平均)



図表2-4 海外の学会・国際会議に出席するに当たり、重視する項目(分散)



の場合、+0.403点、「寺院・博物館等の特別な環境での懇親会やパーティー」の場合+0.325点、「開催地における歴史、文化等の観光資源」の場合+0.390点、「宿泊施設の充実度」の場合+0.247点、「充実した飲食・物販施設」の場合+0.169点、「開催地の気候(温度や湿度等)」の場合+0.143点となり、「開催地までのアクセス」、「寺院・博物館等の特別な環境での懇親会やパーティー」、「開催地における歴史、文化等の観光資源」に関しては重要度が増し、「規模(出席人数等)」、「宿泊施設の充実度」に関してもやや重要度が増す、という結果が得られた。

3. 学会・国際会議開催地としての京都市の魅力

この章では、他の国内競合都市と京都市を比較し、京都市の持つ魅力を考察する。また、京都市産業観光局観光部観光企画課が平成22年3月25日に策定した『京都市MICE戦略』を一部引用し、京都市が、国際会議誘致を有利に進めるために、独自の魅力をどのように利用しようとしているのかを述べる。そして、その問題点も一部考察する。

3-1 京都市が持つ魅力 – 高い外国人参加比率 –

図表 3-1 は国際会議参加者における外国人の数と参加者総数に占める外国人の割合を都市別に比較したものである。数値は2011年のものを利用している。これより、京都市は参加者総数に関して言えば東京23区、横浜市、名古屋市、福岡市に次いで5位であるが、外国人参加者数は東京23区に次いで2位であり、参加者総数に占める外国人の割合は他都市が10%に満たない中、京都市は20%弱と、圧倒的に高い数字を誇っている。

図表3-1 外国人参加者数と参加者に占める外国人の割合

	外国人参加者数(人)	参加者総数(人)	参加者に占める外国人の割合(%)
東京23区	20,371	251,460	8.10
京都市	16,093	84,391	19.07
横浜市	8,728	159,582	5.47
名古屋市	4,748	111,682	4.25
福岡市	7,483	89,018	8.41
神戸市	3,315	42,472	7.81
大阪市	3,822	56,015	6.82

日本政府観光局(JNTO)『2011年国際会議統計』より著者作成

この理由はいくつか考えられる。第一に考えられる点は、京都という都市自体が持つ魅力である。京都は古い寺院が数多く存在し、観光都市としてその名が世界的に知られている。第2章で述べたアンケートより、日本の先生方も海外の学会・国際会議に出席する際、開催地の文化や歴史は国内の場合より重要視することが判明しており、海外の研究者についても「京都での国際会議」に関心を示しているものと思われる。「京都市MICE戦略」では京都での学会、国際会議がより魅力的になるような施策の方向性を与えている。

MICE 開催に係る主会場、レセプション、エクスクーションについて、寺院神社、博物館、美術館等の京都ならではの魅力の活用を図ります。

これより、京都市は寺院・博物館等の特別な環境での会議をアピールして学会、国際会議を誘致しようとしている事が分かる。たしかに、京都独自の環境で会議を実施することは、他の競合都市との差別化を図る上では重要なポイントである。しかしながら、このような場所で会議を開催するには多額の資金が必要であるという障害がある。例えば、寺院で 300 人規模のパーティーを開催するには約 1000 万円が必要になり⁶、現在、京都で行われているこれらのパーティーは年間 10 件程度⁷である。さらにその多くが医学等、サポート企業からの寄付金が多くもらえると考えられる分野に限られている。⁸京都市はそれに対し、以下のような施策を与えている。

京都にふさわしい MICE を誘致するために、財政面を含めた支援策等の充実を図ります。

しかし、京都市による国際会議への開催助成金の上限は 300 万円と他の自治体よりも少ない⁹。「京都での国際会議」をより魅力的なものとして提案するためには、助成金を増やし、医学以外の分野における国際会議においても、寺院・博物館等の特別な環境でパーティーを開催できるようにすることが必要である。外国人参加者が多いことに関して、第二に考えられることは、京都の大学の学術レベルが高い点が挙げられる。例えば上海交通大学が発表している Academic Ranking of World Universities において、京都大学は Chemistry 分野で世界第 7 位、Clinical Medicine and Pharmacy 分野で世界第 28 位、Mathematics 分野で世界第 18 位、Life and Agriculture Sciences 分野で世界第 17 位となっている。加えて、この 4 分野は日本のみならず、アジアの大学においても最上位にランキングされている分野であり、世界中の研究者が意見交換をするために京都を訪れていると考えられる。

3-2 京都市が持つ魅力 – 学生数 –

京都は大学集積都市である。京都市内にある大学数は大学院・大学及び短期大学を合わせて 37 校となっている。この数は東京都の 128 校に次いで全国で 2 番目の多さである¹⁰。それ故、学生数も多く、図表 3-2 は各都市の学生数、推計人口、人口 10 万人当たりの学生数を示したものである。京都市は 7 都市の中では最も人口が少ないものの、学生数は東京に次いで 2 番目であるため、人口 10 万人当たりの学生数は約 1 万人と、人口の 10 人に 1 人が学生であることが分かる。

図表3-2 各都市の学生数

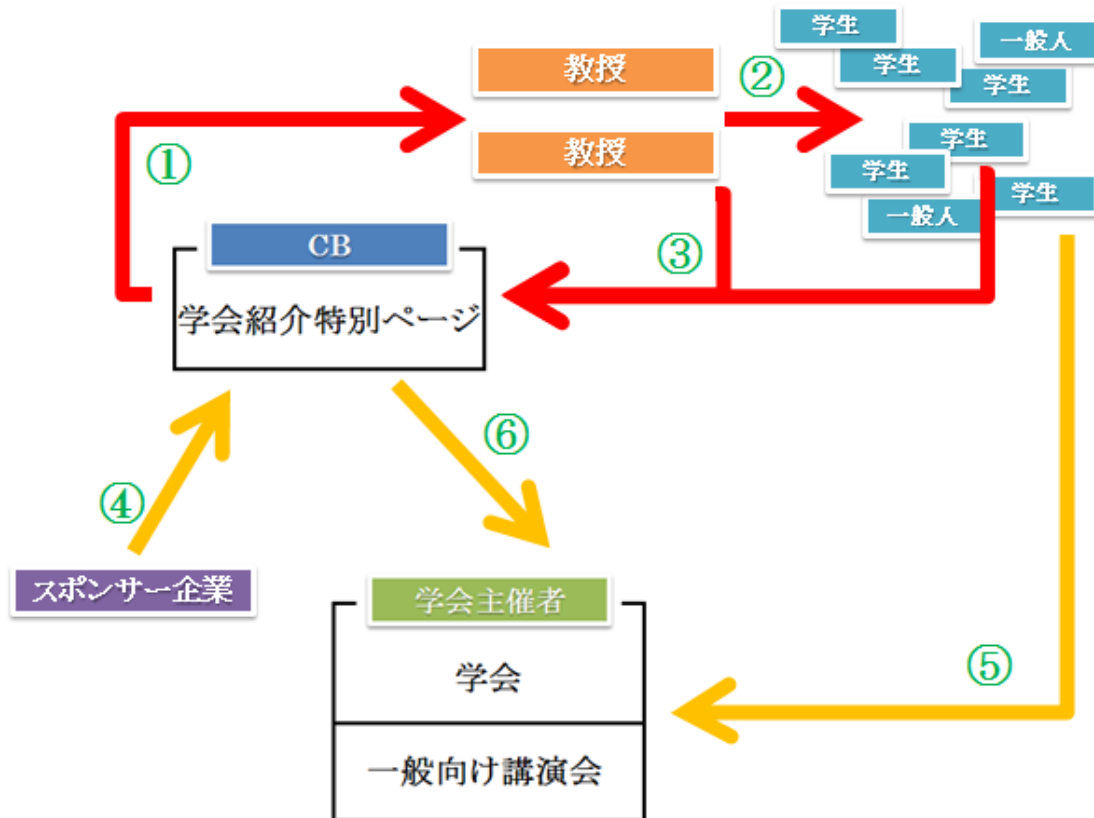
	学生数(人)	推計人口(人)	人口10万人当たりの学生数(人)
京都市	143,162	1,470,742	9734.0
東京23区	513,499	9,059,903	5667.8
横浜市	82,278	3,702,551	2222.2
名古屋市	96,108	2,271,380	4231.3
大阪市	28,249	2,683,487	1052.7
神戸市	70,566	1,539,751	4582.9
福岡市	72,453	1,506,313	4810.0

文部科学省『平成25年度学校基本調査速報』および
 横浜市政策局総務部統計情報課『大都市推計人口(平成25年度10月1日現在)』より著者作成

4. 我々の提案

第3章より、京都には世界中から優秀な研究者が訪れ、研究者の卵といえる学生も数多く在籍していることが分かった。さらに、京都には日本の文化・歴史が凝縮されており、本来京都は、国際会議誘致に関して高いポテンシャルを有していると思われる。これらの利点を生かし、学会、国際会議を京都に誘致することが別の学会、国際会議を誘致する起爆剤となる”いい循環”を生み出すことで、京都の競争力をより高めることができる。第4章では、まず我々の提案を説明した後、どのようにして”いい循環”を生み出すかを説明する。

4-1 提案の全体像



図表 4-1 我々の提案の全体像

図表 4-1 は我々が京都市に”いい循環”を作り出し、MICE 競争力を強化するために考えた提案の全体像である。赤色で描かれた矢印は情報の移動を表し、黄色で書かれた矢印は金銭の流れを表している。図表にある①から⑥の番号は以下で、我々が提案を説明する際に使われる番号と一致している。

- ① まず、京都市文化交流コンベンション・ビューロー(以下、CB と省略する)は京都で開催される学会、国際会議を紹介する特別ページを開設する。そして、CB は twitter や Facebook、YouTube、LINE 等のソーシャル・ネットワーキング・サービス(以下、SNS と省略する)を用いて、学会、国際会議の紹介を行う。ただし、ここで紹介するのは簡単な内容、日時や場所のみとし、当日の詳しいプログラムは CB の学会紹介ページに飛び、無料の会員登録を行わないと閲覧できないものとする。
- ② 学会、国際会議に出席する研究者の何人かはリツイートをするか、“いいね”を押してくれると考えられるため、学会や国際会議の情報が、そのフォロワーや”友達”に伝わり拡散する。twitter や Facebook 等の SNS は不特定多数の人が情報を共有することができるため、図表 4-1 のように、必ずしも教授のリツイートや”いいね”を経由して情報が学生や一般の方々に伝わるわけではない。しかし、現在インターネット上では無数の情報が氾濫しているため、学生がその中から、京都で開催される、学会、国際会議の情報をピックアップすることは困難であると我々は考えた。一方、先生のフォロワーや”友達”にはその学問分野に興味がある人が多いと考えられる。例えば、ゼミや研究室の学生、企業の研究所で働く技術者等。したがって、学会主催者側が予め、先生方にリツイートや、“いいね”を押してくださいと言ってもらえれば、その学会に興味がある学生、研究者、技術者に効率よく情報を拡散することができると考えられる。
- ③ 学会、国際会議の内容に興味を持ってもらえた学生や、一般の方々、さらには自らの専門ではないが、興味を持ってもらえた先生方が学会紹介特別ページにアクセスする。そして、メールアドレスや、興味のある学問分野について答えてもらい会員になってもらう。学会主催者のページに飛ばせば会員登録の手続きなしで詳しいプログラムを見ることが可能であると考えられるため、会員の特典として学会、国際会議の参加費を割引料金にて受けられるような仕組みにする。
- ④ CB は優秀な技術者の卵である学生や、研究者が数多く登録することをアピールし、企業から広告費を出してもらい、スポンサー企業になってもらう。そして、集まった金銭をプールしておく。
- ⑤ 学会、国際会議に興味を持ってもらえた学生や一般人の方々が学会や一般向け講演会に参加する。そこでは参加費を徴収するか、寄付金を募る、等を行うことで、学会、国際会議の新たな収益源とすることができる。美術や医学(特に病気に関するもの)に関する講演会は、一般の方も関心度が高いと考えられるが、現在、このような一般向け講演会の告知は SNS を使って行っている場合は少ないため、講演内容によっては多くの参加者を見込むことができる。

- ⑥ 現在、国際会議の開催助成金の限度額は 300 万円であるが、京都で学会・国際会議を開催する場合、④でプールしておいた金銭を用いて、上記の 300 万円とは別の補助金を交付する。

4-2 各プレイヤーにとってのメリット（学会主催者の場合）

近年、多くの国際組織にとって、国際会議から得られる収入は、非常に重要な収益源となっている。例えば国際糖尿病連合では、2011 年度の総収入のうち国際会議からの収入が 58% を占め、国際薬学連合では 2010 年度の総収入の 66% を占めている¹¹。また、その総収入のうち、約半分は学会、国際会議の出席者による参加費、残りの半分がスポンサー企業からの寄付金や企業が出展する展示ブースへの場所貸し料となっている。しかし、スポンサー企業から得られる収益は景気に左右され、出席者から得られる収益は世界情勢に左右される¹²。また学会、国際会議主催者は多くの参加者を獲得でき、安定した収入が見込まれる場所を学会、国際会議開催地として選択したいという希望がある¹³。我々の提案では、初期段階では安定した収入を確保するのは難しい可能性があるが、CB に各学生や各先生方の好みが蓄積されるうちに、参加するであろうと思われる人物に対しピンポイントに学会、国際会議を紹介することが可能となり、安定した収益を上げることができるようになると考えられる。

4-3 各プレイヤーにとってのメリット（京都市、CB の場合）

京都市、CB は安定した収入を上げることができる(新たな収益源が確保できる)点と、国際会議の開催助成金を増やすことができる(開催経費の節減)点をアピールすることで、より多くの、国際会議を誘致することができ、京都市は会議出席者からより多くの税収入(宿泊や観光費用等によるもの)を上げることができる。多くの国際会議が京都で開催されると、CB がスポンサー企業から得られる広告費も増加し、より多額の国際会議開催助成金を交付することができるようになる。また、「京都」を諸外国に宣伝することができる、寺院などでのレストランについても今以上の開催助成金を支給できるようになる。

4-4 各プレイヤーにとってのメリット（学生の場合）

第 2 章で実施したアンケートにおいて、追加的なアンケートに答えても良いと回答して頂いた先生と京都大学経済学部の先生方に「学生は学会の開催予定をどのように入手するか」について質問したところ、多くの先生方が「先生から直接伝わる」と回答した。またその理由に対しては「学会の情報が回ってこないから」と回答している。我々の提案では学生は会員登録を行うことにより、京都で開催される、学会・国際会議の情報を一目で確認することができるだけでなく、参加者は京都に集まる、優秀な研究者から刺激を受けることができる。長い目で見れば、優秀な研究者から知を享受することは、京都から優秀な研究者を輩出することにつながる。

4-5 この章のまとめ

京都の CB は学会紹介特別ページを作り、学生・研究者がその会員になることで、学会・国際会議主催者はより効率的に外部からの収益を増やすことができる。また、学生・研究

者が多く集まることを利用し、企業にスポンサーになってもらい、そのスポンサー料を用いることで学会・国際会議に対しより多くの補助金を支給することができる。これにより、寺院等を用いた「京都らしい」会議開催が容易となる。この点をアピールすることで、京都により多くの学会・国際会議を誘致できるようになる。そして、より多くの学会・国際会議を誘致できれば、より多くの学生・一般人が参加し、スポンサーも増やすことが可能となり、さらに多くの学会・国際会議が誘致できるようになるという”いい循環”が生み出される。京都市は”いい循環”により、より多くの経済効果が見込まれるだけでなく、世界の最先端の知に触れることにより、質のよい研究者、技術者を京都から輩出することができるようになる。

5. おわりに

第 1 章でも述べたように、国際会議開催に関して、京都市の競争力はここ数年低下してきている。しかしながら、京都が古くより守り、受け継いできた文化、歴史と、SNS という最新のツール、そして学生が多い等、京都市のもつ特別な環境を混合させれば、京都の MICE 競争力を強化することができるだけでなく、質の良い研究者を京都から発信できるようになるはずである。日本の各都市で、各地域の特性に合わせた”いい循環”が生み出されれば、それらが相乗効果を生み出し、京都のみならず、日本の競争力強化につながるはずである。この論文の執筆には京都大学の先生方の協力なくしては成しえなかったものである。この場を借りて心よりお礼を申し上げます。また、お忙しい中、無知な我々に対し、日本における現状を一から説明して下さった日本政府観光局(JNTO)、公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー、株式会社コングレ、京都市産業観光局 MICE 推進室の担当者にも感謝を申し上げます。特に、国立京都国際会館の関光代さまと浜秋明博さまは、お忙しい中、対面でのインタビューに答えて頂いただけでなく、見学日でないにも関わらず、館内の案内をしてくださいました。ここに感謝の意を表します。

脚注

¹ MICE とは Meeting(企業等の会議)、Incentive(企業が従業員やその代理店等の表彰や研修などの目的で実施する旅行)、Convention(国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議等)、Exhibition(文化・スポーツイベント・展示会・見本市)の頭文字を取ったものである。MICE により得られる効果は、ビジネスイノベーションの機会の創造、地域への経済効果、国・都市の競争力向上の 3 点が挙げられる。

² 「グローバル MICE 戦略都市を選定しました!」(国土交通省観光庁ホームページ、http://www.mlit.go.jp/kankochu/news07_000049.html、2013 年 11 月 23 日アクセス確認)

³ 「福岡市、博多港に大規模展示場を新設へ 国際会議の誘致強化」(『日本経済新聞』、2013 年 11 月 22 日付、<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO62948440R21C13A1LX0000/>)

⁴ 2011 年は東日本大震災が発生した影響もあり、2011 年の国際会議開催数は本来の値ではないと考え、福岡市、横浜市、名古屋市における国際会議開催数の増加率の計算では、2002 年と 2010 年の国際会議開催数を用いて計算を行った。

⁵ 「我が国の MICE 競争力強化に向けて」(谷合隆、国土交通省観光庁、<http://www.mlit.go.jp/common/000220220.pdf>、2013 年 11 月 24 日アクセス確認)

⁶ 公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューローに対し、電話にてインタビューを行い、得られた回答より。

全てを参加者から徴収する場合、1 人当たり 3 万円以上の参加費が必要である。一方、2013 年 12 月 14 日から 15 日に京都大学で開催される行動経済学会第 7 回大会の懇親会では京都大学構内のレストランを使用し、その費用は 2500 円から 5000 円と、ユニークベニューを使用した懇親会より約 10 分の 1 程度の費用で賄うことができる。

⁷ 公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューローに対し、電話にてインタビューを行い、得られた回答より。

⁸ 公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューローに対し、電話にてインタビューを行い、得られた回答より。

⁹ 東京都の場合は 1000 万円、横浜観光コンベンションビューローの場合は 1000 万円、神戸市の場合は 500 万円、新潟県の場合は 700 万円を国際会議の開催助成金として交付している。

「~国際競争力ある MICE 拠点都市の確立を目指して~ 横浜市 MICE 機能強化に向けての提言書」横浜市 MICE 機能強化検討委員会 平成 24 年 3 月作成

(<http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/kancon/convention/mice/sankou.pdf>、p.26

2013 年 11 月 25 日アクセス確認)

¹⁰ 「大学のまち・学生のまち 京都市 -国勢調査でわかること(その 4)-」(京都市総合企画局、<http://www.city.kyoto.jp/sogo/toukei/Publish/Monthly/Topics/201008-01.pdf>、2013 年 11 月 25 日アクセス確認)

¹¹ 「国際会議誘致マニュアル」日本政府観光局(JNTO)コンベンション誘致部 平成 24 年 12 月作成(第 3 章 ビッドペーパー(立候補提案書類 p.32、

http://mice.jnto.go.jp/convention/marketing/manual/pdf/marketing_manual2012_3shou.pdf、2013 年 11 月 25 日アクセス確認)

¹² 株式会社 コングレに対し、電話にてインタビューを行い、得られた回答より。

2012 年 9 月に尖閣諸島を国有化した影響で中国からの学会、国際会議出席者は半減したといわれる(京都の場合)。

¹³ 株式会社 コングレに対し、電話にてインタビューを行い、得られた回答より。

参考資料

1. 観光庁『MICE の開催・誘致の推進』
(<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/mice.html>、2013年11月26日アクセス確認)
2. 日本政府観光局(JNTO)『2011年国際会議統計』(<http://mice.jnto.go.jp/data/stats/>、2013年11月26日アクセス確認)
3. 京都市産業観光局観光部観光企画課『京都市 MICE 戦略』
(<http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/cmsfiles/contents/0000098/98836/mice-senryaku.pdf>、2013年11月26日アクセス確認)
4. ラグジュアリーホテル.JP『ザ・リッツ・カールトン京都が 2014 年 2 月 7 日開業決定!』
(<http://luxuryhotel.jp/130510-ritzcarlton-kyoto-open.html>、2013年11月26日アクセス確認)
5. 陽は西から昇る! 関西のプロジェクト探訪『フォーシーズンズホテル京都「(仮称)京都東山ホテル開発計画」2013年5月12日の状況』
(<http://building-pc.cocolog-nifty.com/map/2013/05/2013512-694d.html>、2013年11月26日アクセス確認)
6. 行動経済学会第7回大会 HP(<http://www.abef.jp/event/2013/index.html>、2013年11月26日アクセス確認)
7. 文部科学省『平成 25 年度学校基本調査速報』
(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/08/1338336.htm、2013年11月26日アクセス確認)
8. 横浜市政策局総務部統計情報課『大都市推計人口(平成 25 年 10 月 1 日現在)』
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/jinko/city/new-j.html>、2013年11月26日)